



2018年11月14日

各位

本社所在地 東京都新宿区北新宿二丁目21番1号
 会社名 RIZAPグループ株式会社
 代表者 代表取締役社長 瀬戸 健
 コード番号 2928 札幌証券取引所アンビシャス
 問合せ先 グループ管理本部長 鎌谷 賢之
 電話番号 03-5337-1337
 U R L <https://www.rizapgroup.com/>

連結業績予想及び配当予想の修正、当社グループの構造改革に関するお知らせ

～ 持続的成長に向けた抜本的な構造改革に着手へ ～

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2018年5月15日に公表いたしました2019年3月期通期連結業績予想及び配当予想の修正、ならびに、当社グループの構造改革の実施について下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期通期連結業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

（1）修正の内容

	売上収益	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株 当たり当期利益
前回発表予想（A）	百万円 250,000	百万円 23,000	百万円 21,100	百万円 15,940	円 銭 29.17
今回修正予想（B）	230,900	△3,300	△4,900	△7,000	△12.81
差 額（B－A）	△19,100	△26,300	△26,000	△22,940	-
差 額 率（％）	△7.6	-	-	-	-
（※ご参考）前期実績 （2018年3月期）	136,201	13,541	11,998	9,250	18.15

（注）2019年3月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前期実績については、暫定的な会計処理の内容を反映しております。

（2）修正の理由

当社グループは、グループビジョン「自己投資産業グローバル No. 1」の実現に向けて、主力事業であるRIZAP関連事業をはじめ、イデアインターナショナル、夢展望、HAPiNS（2018年8月1日付でパスポートより社名変更）及びジーンズメイトなど、M&Aによりグループ入りし、早期での経営再建に成功したグループ会社が当社グループ全体の成長を牽引し、前期2018年3月期においては、連結売上収益は6期連続増収、連結営業利益は5期連続増益を達成するに至りました。

今期2019年3月期においても、業績予想を達成すべく、引き続きM&Aによりグループ入りした企業の経営再建に注力してまいりましたが、ワンダーコーポレーション、ジャパングートウェイ、サンケイリビング新聞社、ぱど、タツミプランニングにおけるメガソーラー事業等、過去1年以内に当社グループ入りした企業・事業を中心に経営改善が当初の見込みより遅れていること、構造改革が進展し成長路線へ転換しつつあったMRKホールディングス（2018年10月1日付でマルコより社名変更）において主力商品の一時的な生産遅延の影響や構造改革の実施継続等により業績回復が遅れていること、及び、SDエ

ンターテイメントにおける本年9月6日に発生した北海道胆振東部地震に伴う特別損失の計上等により、これらのグループ会社・事業の業績が通期業績予想に対し大幅に未達成となる見込みとなっております。

これらのグループ会社・事業については、可及的速やかに業績を回復させることが当社グループ全体にとって喫緊の課題となっているため、後述の通り、「グループ会社・事業の経営再建の早期完遂」、「強靱な経営体質への変革」、「事業の選択と集中」、「新規M&Aの原則凍結」及び「成長事業への経営資源集中」等、当社グループの持続的成長に向けた構造改革のための施策を実行することとし、これに伴い、今般、業績予想を修正することといたしました。

連結営業利益の前回発表予想と今回修正予想との差異に関する主な内訳は、主にグループ入り1年以内の企業を中心とした経営再建の遅れによる影響額として約7,160百万円、早期の構造改革のために今期において計上する構造改革関連費用等を含む非経常的損失として約8,350百万円、新規M&Aの原則凍結による影響額として約10,360百万円、その他連結調整等における影響額として430百万円を見込んでおります。

2. 2019年3月期配当予想の修正

(1) 修正の内容

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (2018年8月13日発表)	—	0.00	—	5.73	5.73
今回修正予想	—	0.00	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
前期実績 (2018年3月期)	—	0.00	—	7.30	7.30

(注) 前期実績(2018年3月期)の配当金の額につきましては、2018年6・7月に実施した新株式発行及び2018年8月に実施した株式分割(2分割)は考慮しておりません。

(2) 修正の理由

当社は親会社の所有者に帰属する当期利益の20%を年間配当額の目処とする配当方針を採っておりますが、今般の業績予想修正及び構造改革を早期に実行していく必要があることを踏まえ、2019年3月期の配当については無配とさせていただきます。

3. 構造改革の概要

当社は、当社グループの持続的成長に向けて、以下の通り、「グループ会社・事業の経営再建の早期完遂」、「強靱な経営体質への変革」、「事業の選択と集中」、「新規M&Aの原則凍結」及び「成長事業への経営資源集中」等、当社グループの構造改革のための施策を実行いたします。

これらの施策の具体的な内容は以下のとおりです。

(1) グループ会社・事業の経営再建の早期完遂

先述のとおり、主にワンダーコーポレーション、ジャパングートウェイ、サンケイリビング新聞社、ぱど、タツミプランニングのメガソーラー事業等、経営再建途上のグループ会社・事業に加え、今期の一時的要因の影響が出ているMRKホールディングスについては、経営再建の早期完遂による業績の回復が急務となっております。

今期においては、これらのグループ会社・事業に対する当初の計画を見直し、経営再建の早期完遂に

向けて経営資源を集中させることで、来期以降の早期黒字化を目指してまいります。

(2) 強靱な経営体質への変革

当社グループの持続的成長に向けて、ワンダーコーポレーション、ジャパングートウェイ、ぼど、タツミプランニングのメガソーラー事業を中心としたグループ会社における在庫の適正化や固定資産の減損処理等の構造改革関連費用等を今期中に計上し、来期以降の持続的成長に向けた強靱な経営体質への変革を進めてまいります。なお、構造改革関連費用等のうち、子会社において特別損失として計上される費用は、国際財務報告基準（IFRS）を適用する当社においては連結営業利益段階で計上されます。

(3) 事業の選択と集中

当社はこれまでM&Aの積極的な実施と迅速な経営再建による当社グループ全体の成長をグループ戦略の柱としてまいりましたが、今後につきましては、先述のとおり当社グループの全ての事業を対象に、短期的な収益改善が難しい事業、及び、当初想定していたグループシナジーが見込めない事業は、事業の縮小・撤退、もしくは事業売却等を進めてまいります。

(4) 新規M&Aの原則凍結

上述の（１）～（３）の施策の着実な実行に経営資源を集中するため、経営再建途上のグループ会社・事業の業績回復の目途が立つまでの期間については、従来のM&A方針を変更し、今後新たに実施する企業買収・事業譲受等のM&Aを原則として凍結いたします。

(5) 成長事業への経営資源集中

当社グループの持続的成長のため、上記４つの施策に加え、これまで当社グループの成長を牽引してきたRIZAP ボディメイク事業及びRIZAP GOLF、RIZAP ENGLISH等のRIZAP 関連事業、RIZAP メソッドと親和性の高い成長分野であるスポーツ・フード・ヘルスケア分野への経営資源の集中を加速させ、当社グループ全体の成長に向けた経営基盤の強化を図ってまいります。

当社グループは、今回実施する構造改革を通じて、持続的成長の実現及び高い収益性を確保できる強靱な経営体質への変革を加速し、早期に業績を回復させ、引き続きグループビジョン「自己投資産業グローバル No. 1」の実現を目指してまいります。

また、このたびは、株主の皆様をはじめとした多くのステークホルダーの皆様にご多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことに付き、深くお詫び申し上げます。今後、早期の業績回復と更なる拡大に向けて邁進し、市場及びステークホルダーの皆様からの信頼回復に努めてまいります。

以 上